

## ネパールのダリット女性たち

ヨヤーナ・ポッカレル（ネパール）

本稿ではまず初めに、「ダリット」の意味を理解していただくことが重要です。ネパールではいまだに厳格なカースト制度が根付いており、可触民と不可触民とに大別されます。さらに、バウン（またはブラーミン）（司祭・学者）、クシャトリヤ（王族・武人）、ヴァイシャ（市民・商人）、シュードラ（旧奴隷階級・労働者）という4つの身分に伝統的に分類されています。シュードラはこの4つの階級の一番下で、不浄で不可触のカーストとされています。「ダリット」という呼称は国内外で広く使われていますが、ネパールでは政府が不可触民を指す時に用いる用語です。ダリット NGO 連盟によると、ネパールの総人口 2,600 万人に対し、ダリットの人数は 450 万人だということです。ダリットの一家は十分な教育を受けられず、また土地などの生産活動に必要な資産も持たないため、経済的に厳しい生活を強いられ、生きていくためには上位カーストの人々に依存しなければならない状況にあります。

ダリットの女性は、魔女の汚名を着せられたり、多岐にわたる DV を受けたりと、さまざまな形の虐待に苦しんでいます。あらゆる指標を見ても、彼女たちの社会文化的・政治的・経済的地位や学歴は、底辺にあることが分かります。いくつか例を挙げると、低層レベルのダリット女性の識字率は 17.4% にすぎず、トイレが利用できる割合はわずか 5.5% でしかありません。ちなみにそれ以外の国民の 42% はトイレを利用できる状況にあります。また、ダリットの子どもの栄養失調の割合も高く、35.9% となっています。長い間、ダリットの女性と子どもは追い詰められた状態で暮らすことを余儀なくされており、今も差別に苦しんでいます。また、ダリットの女性と子供の生活を悪化させているもう一つの問題が、若年妊娠と児童婚です。例えば、ダリットの少女のうち 15 歳未満で結婚する割合は 62% におよびます。

また、ある社会学者によると、ダリットは軍への入隊から排除され、財産の所有を否定され、学校に行くことを認められておらず、さらに男性は歴史的に妻に関する権利も持たず、ダリット以外の女性との関係も認められていないそうです。

### 政府規定

ネパール政府は、ダリット女性に対する多重差別の撤廃を目指し、さまざまなプログラムを実施していますが、まだ努力が必要な面も多々あります。そのため、国家女性委員会や国家ダリット委員会および郡役所内にダリット女性のためのヘルプデスクを設置すべきだという提言がなされました。さらに、ダリット女性に対するさまざまな形態の差別の撤廃に取り組んでいる女性のためのプログラムに重点を置くことも、極めて重要です。ネパールでは、女性に対する差別を禁じる法規定を導入しており、女子に対するあらゆる形態の差別の撤廃に関する条約 (CEDAW) も批准しています。これに加え、メディアや政治的・宗教的指導者を巻き込み、国民に対する教育や啓発活動を行うことも大変重要です。

また専門家は、ネパールには、国際人権規約の加盟国・締約国として、カースト制度に基づく差別の撤廃に向けたコミットメントと行動を示すチャンスがあると主張しています。

### 良い変化のきざし

ネパールでは 20 年ぶりに地方選挙が行われ、有権者は投票の機会を得ました。2017 年地方選挙法では、区委員会の 4 名の委員のうち 2 名以上を女性とし、そのうち 1 名はダリットの女性とすると定められています。その結果、7,526 名のダリット女性が立候補し、6,000 名以上が当選したのです。これはダリット女性にとって大きな達成であり、これを機にダリット女性による政治参加が徐々に進むことを期待しています。

今まで家事だけに専念してきた女性たちが、自らのアイデンティティと権利を求め、家から出て公の場に姿を現わし始めたのだと女性権利活動家たちは言います。最近はダリット女性も自らの権利に対する意識を高めており、ライフスタイルや暮らし向きにも変化が出てきています。多くの村でダリット女性たちは、それまで男性に占有されていた開発の仕事に就くようになっていきます。例えば飲料水用の水道管の設置、道路および小学校の建設、知識の伝播などに関わる仕事です。中には、自分たちが利用する権利のある施設やサービスの提供を受けるために、地方自治体に働きかけるダリット女性もいます。このような良い変化はダリット女性の地位向上につながり、カースト制度に基づく差別を打ち砕き、私たちの社会に革新的な変化をもたらすでしょう。



ネパール東部の村で家事をするダリットの一家